

(公財) 日本ヘルスケア協会から

発行：日本ヘルスケア協会 事務局

今回は、JACDS 記者会見復帰を機会に最近の JAHl の動きについてご報告いたします。

1. JAHl は7月3日(月)より、日本橋横山町の新築ビルにて活動を開始いたしました。

新オフィスは面積 180.07 平米、5 階建てビル(6月18日竣工)の2階です。

共用スペースは、「ホール」、「会議室」、「打合せ室」の3タイプで、ホールは、イスだけを並べる講演会スタイルの利用(スクール形式)なら64席、机を入れて利用する部会や委員会スタイルの場合は、最大6脚の机の両側に3人掛けで36席となります。また、会議室は長テーブルの両側に10席、打合せ室は丸テーブルに4席、ホールと会議室にはプロジェクターとスクリーンの準備があります。(Wi-Fi 設備設置)以上の他に、役員室と事務室があります。

会員同士の交流・情報交換、一般向けのセミナー・イベントの開催等に大いにご活用頂きたいと考えています。予約は、事務局(03-6810-8511)までお願いします。

2. JAHl は7月、「プラネタリーヘルス・イニシアティブ(PHI)」を立ち上げました。

3月17日・18日開催の第4回年次大会を通じて注目されたのは「プラネタリー・ヘルス」という概念です。人と地球の全てのシステムは相互に依存し合い密接に繋がっているという考え方を前提に、ヒトを含む地球の全体最適化を目指す最も統合的なヘルスケア概念であり、SDGsの全体的な推進にも繋がる考え方です。今年次大会には、わが国のPH推進の第一人者であり、気鋭の内科医・認定産業医でもある桐村里紗医師に基調講演とパネル討論への参加をお願いしました。(詳しくは年次大会報告書ご参照)

JAHl では、欧米の学界・産業界に比較して著しく立ち遅れているわが国のPH普及を急速に推進するために、協会内にPHIを立ち上げることとし、4月・5月・6月と毎月1回の準備会を重ね、7月27日(木)に関係者による第1回会合を開催しました。今後、様々な方法を用いて、広く学界・産業界にPH普及を働き掛けてまいります。

3. JAHl は新事務所の開設を記念し、8月1日に特別講演会を開催しました。

JAHl では、岡山大学の馬 建鋒教授をお迎えして、8月1日(火)新事務所開設記念の講演会を開催しました。

馬先生は、2015年から8年連続で、「世界で最も影響力のある科学者」に選出され、わが国から次のノーベル賞受賞者が出るとしたら至近距離におられるとささやかれている植物栄養学の権威であり、一貫して植物における「トランスポーター(輸送体)」の働きを追われています。これまでに日本学術振興会賞、米国植物生理学会終身会員賞、日本農学賞他、数々の賞を受賞され、2022年には日本植物生理学会賞の他、紫綬褒章を受章されておられます。

当日は、『土・作物・健康を繋ぐミネラル輸送』と題して、当協会の土壌部会・お米部会・野菜部会に密接な関連を持つ特別講演をされ、会場出席・WEB参加を含め100名以上の聴衆が感銘を受けました。

4. 第1回「ヘルスケア研究助成」採択研究が一斉にスタートしています。

公益財団法人認定の一丁目一番地である研究助成事業に関して、JAHl では昨年11月1日～本年1月31日の3か月間、全国の官民研究機関に対して公募を行い、合計31件の申請を頂きました。応募案件はペットケアからセルフケア、フレイル予防、健康経営、COVID19関連、アスリートの栄養摂取、地域包括支援センター関連まで、協会の性格を反映して幅広い分野から寄せられました。4月5日の選考委員会の結果、5本の研究(①小児の医薬品誤飲防止を目的とした新規包装ならびにピロリ菌の創生に関する基礎研究、②地域在住高齢者を対象とした口腔ケアを介したフレイル予防に関する研究、③白米へのケイ素施肥の健康価値に関する研究、④白岡市ひまわりプロジェクト、⑤高齢者の下肢位相角の低下と効果的な介入点の検討)が採択され、来年4月30日の締切をゴールに、一斉に研究がスタートしています。

